

コマンド入力による操作1(ロード、プロット、画像 ファイル出力等)

| 著者 | 八木 学, IUGONET プロジェクトチーム |
|-----|-----------------------------------|
| URL | http://hdl.handle.net/10097/56364 |



超高層大気長期変動の全球地上ネットワーク観測・研究 Inter university Upper atmosphere Global Chservation NETwork

コマンド入力による操作1 (ロード、プロット、画像ファイル出力等)

IUGONETデータ解析講習会

平成25年8月21日

場所: 国立極地研究所

東北大学 八木学

yagi@pparc.gp.tohoku.ac.jp

CUIの基本的な使い方の流れ

- 1. 初期化する
- 2. 解析したい期間 (timespan) を指定する
- 3. ロードプロシージャを用いてデータを読み込む
- 4. 読み込まれたデータを確認する
- 5. プロットする

データをロードする

2012年11月の磁気嵐時における観測データをロードする

初期化コマンド

IDL>thm_init

2012年11月11日から7日間を指定する。

THEMIS>timespan, '2012-11-11', 7, /day

LF電波観測データとOMNIデータをロードする。

THEMIS>iug_load_lfrto, site='ath', trans=['wwvb','ndk']
THEMIS>omni_hro_load

trans='wwvb ndk' という風に、配列の代わりにスペース区切りの 文字列で指定することもできる

期間の指定方法

期間(timespan)は以下の書式で指定する

THEMIS>timespan,'yyyy-mm-dd/hh:mm:ss',n,option

日付・時間を指定(時間は省略可能)

期間の長さを指定 (sec、min、hour、day)

例1: 2003年11月20日から1日分を指定する

THEMIS>timespan,'2003-11-20'

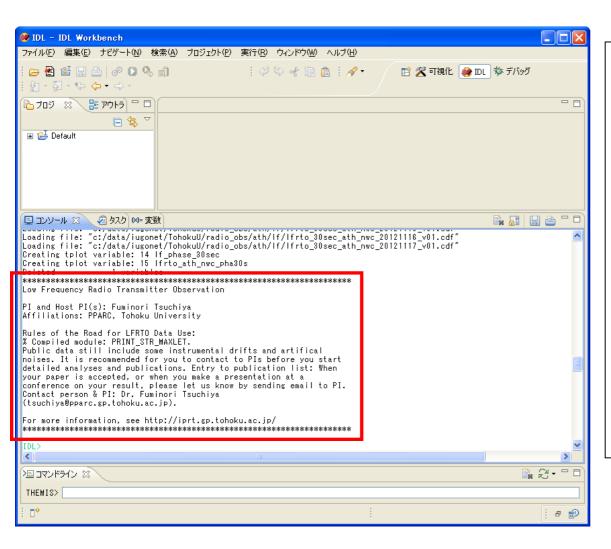
*1日分の場合(,1,/day)オプションは省略可能

例2: 2010年11月12日1時31分から10分間を指定する

THEMIS>timespan,'2010-11-12/01:31:41',10,/min

データ使用時の注意事項

<u>データを読み込むと、コンソールに Rules of the road が</u> <u>表示される</u>



データを使う際に必要な PIへのコンタクトや、論文 に書くべき謝辞内容など が表示される

データ自体の注意事項などが書かれている場合もあるため、使うときには必ず内容を確認すること

読み込まれている"tplot変数"の確認

ロードプロシージャによって読み込まれたデータは、「tplot変数」と呼ばれる特殊な変数に格納される

THEMIS>tplot_names

番号

tplot変数名

- 1 lfrto_ath_wwvb_pow30s
- 2 lfrto_ath_wwvb_pha30s
- 3 lfrto_ath_ndk_pow30s
- 4 lfrto_ath_ndk_pha30s
- 5 OMNI_HRO_1min_IMF
- 6 OMNI_HRO_1min_PLS

.

LF電波観測データ(LFRTO)

放射線帯電子の降り込みにより、電離圏(主にD層)の大気がイオン化し、LF電波の反射高度が変わることで、位相や強度に変化が見られる。

OMNIデータ

衛星を用いた太陽風観測 や、地上の磁場擾乱の指数 (Dst, SYM, etc)などを含む。

tplot変数の詳細情報

THEMIS>tplot_names, tplot 変数名(番号), /verbose

,/v でもOK!

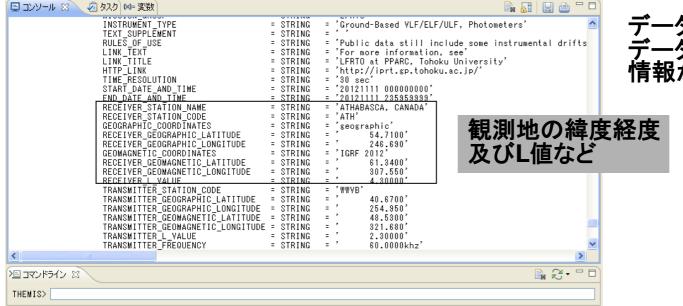
THMIS>tplot_names, 'lfrto_ath_wwvb_pow30s', /verbose

or

THMIS>tplot_names, 1, /v



番号は tplot_names で表示されるリストで確認



データの単位や、観測地の緯度経度、 データに関する連絡先といった各種メタ 情報が参照可能

データをプロットする

複数のデータを並べてプロットする

THEMIS>tplot, [tplot 変数名(番号), tplot 変数名(番号),...]

THMIS>tplot,['OMNI_HRO_1min_BZ_GSE','OMNI_HRO_1min_proton_density','OMNI_HRO_1min_SYM_H','Ifrto_ath_wwvb_pha30s'

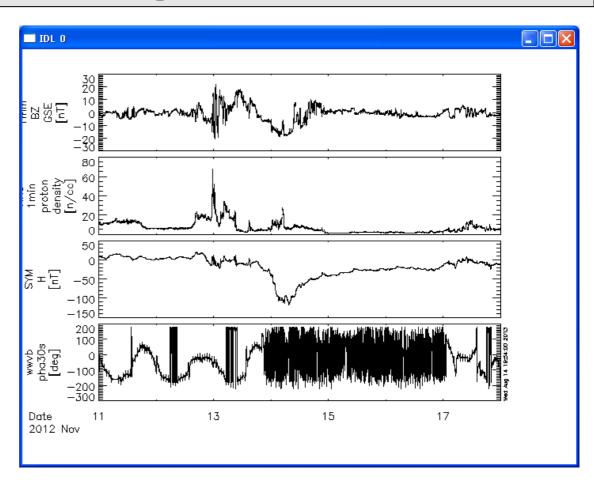
THMIS>tplot,[17,26,43,2]

としても、同様のプロットが作成される。

プロットする要素が1つの 場合、[]を省略して

THMIS>tplot,1

としてもよい



様々なオプションを指定する

optionsの基本的な記述方法

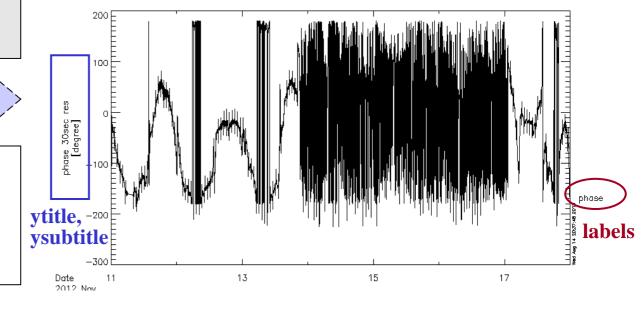
THEMIS>options, tplot 変数名(番号), option名, 値など

例: Y軸のタイトルやラベルを変える

THEMIS>options, 'lfrto_ath_wwvb_pha30s', 'ytitle', 'phase 30sec res' THEMIS>options, 'lfrto_ath_wwvb_pha30s', 'ysubtitle', '[degree]' THEMIS>options, 'lfrto_ath_wwvb_pha30s', 'labels', 'phase'

THEMIS>tplot,'Ifrto_ath_ww vb_pha30s'

ytitle ysubtitle labelsはtplot変数のメタ情報として保存されており、tplot_names, tplot変数名,/vとすれば、確認できる。



様々なオプションを指定する

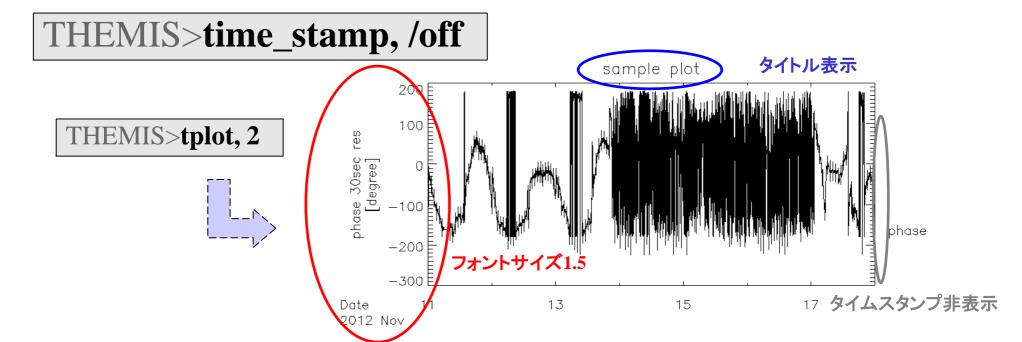
全体のタイトルを変更

THEMIS>tplot_options, 'title', 'sample plot'

フォントのサイズを変更

THEMIS>tplot_options, 'charsize', 1.5

ウィンドウ右下に出るタイムスタンプを消す



ファイルに出力する

PNG形式で画像出力

THEMIS>tplot,1
THEMIS>makepng,'figure1'

デフォルトではカレントディレクトリに出力される (Windowsの場合はホームディレクトリ)

figure1.png が作成される

PostScript形式で画像出力

THEMIS>popen,'figure2'
THEMIS>tplot, 2
THEMIS>pclose

popenでPSファイルを開き、tplotなどの描画 命令を実行する。pcloseでファイルを閉じる

figure2.ps が作成される

Ascii(テキスト形式)で出力

THEMIS>tplot_ascii, 3

tplot変数の中身がascii dumpされ、 テキストファイルとして保存される

時間幅、軸スケールを変更する

プロットする時間幅を変更する

THEMIS>tlimit, '2012-11-12', '2012-11-16'

軸スケールを変更する

THEMIS>ylim,'OMNI_HRO_1min_SYM_H', -300, 100

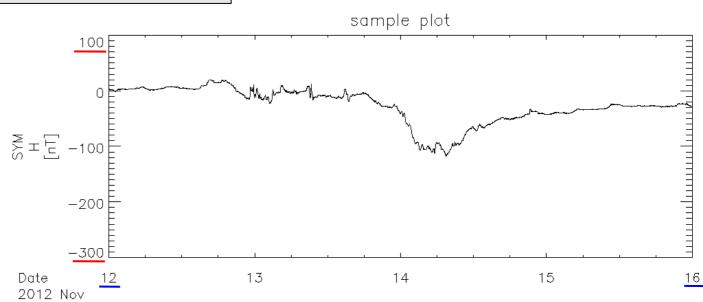
最小値 最大値

- ・tlimit とだけ入力し、 ウィンドウを2点クリッ クすることで指定する ことも可能
- •tlimit,/last と入力すれば1つ前の選択範囲に戻る
- tlimit,/full と入力すればtimespanで指定した選択範囲に戻る

THEMIS>tplot,'OMNI_HRO_1min_SYM_

---->

パワースペクトルのような 2次元コンターの場合、 zlim を指定することでカラ ースケールを調整できる



CribSheetを活用する

CribSheetとは

ロードプロシージャ等、コマンドの使い方の例が書かれたスクリプト

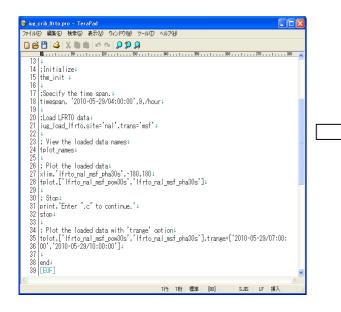
そのまま実行する

THEMIS>.r iug_crib_lfrto

Crib Sheet が置かれている場所

tdas_x_xx/idl/themis/examples tdas_x_xx/idl/erg/examples tdas_x_xx/idl/ssl_general/examples udas_x_xx_x/iugonet/examples

コピー&ペーストする



IDL>thm init

THEMIS>timespan, '2010-05-29/04:00:00', 9, /hour

THEMIS>iug_load_lfrto, site='nal', trans='msf'

THEMIS>tplot_names

THEMIS>tplot,['lfrto_nal_msf_pow30s','lfrto_nal_

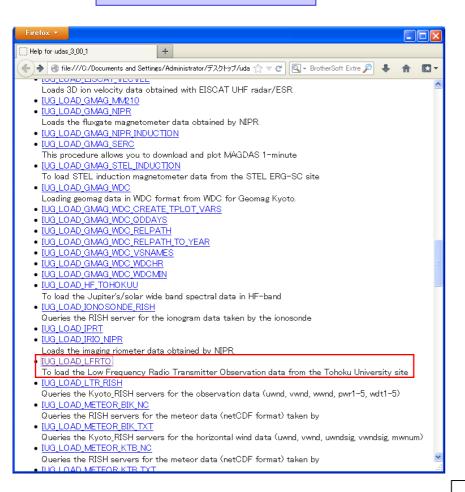
msf_pha30s']

マニュアルを参照する

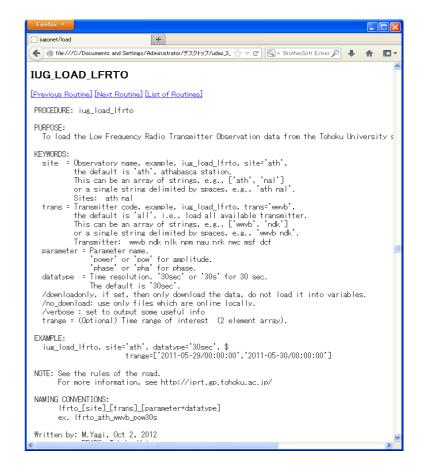
TDASマニュアル tdas_x_xx/idl/_tdas_doc.html

UDASマニュアル udas_x_xx_x/_udas_doc.html

UDASマニュアル



今回用いた IUG_LOAD_LFRTO



siteの指定など、オプションの使い方などが記されている

APPENDIX

データを成分ごとに分離

```
THEMIS>del_data, '*' tplot変数を削除
THEMIS>iug_load_gmag_wdc, site='ae' 地磁気データ(AE指数)をロード
THEMIS>tplot_names
1 wdc_mag_ae_prov_1min

THEMIS>tplot, 'wdc_mag_ae_prov_1min'
THEMIS>split_vec, 'wdc_mag_ae_prov_1min'

**tplot変数を各成分ごとに分離し、新たなtplot変数を作成
```

